

2019年5月25日

学校法人三幸学園  
福岡医療秘書福祉専門学校  
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 長谷川 豪

### 学校関係者評価委員会報告

2018年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 長谷川 豪 (特定医療法人 福西会 福西会病院)
- ② 小田 商平 (医療法人井上会介護老人保健施設 サンライフ陽光苑)
- ③ 藤田 憲子 (福岡興業株式会社)
- ④ 井上 可奈子 (卒業生)
- ⑤ 相良 翔子 (卒業生)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年5月25日(会場 福岡医療秘書福祉専門学校 201教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 會田 隆太

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 長谷川 豪

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

なお、この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践

「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている

・挨拶指導、清掃指導の強化

コミュニケーションの基本である挨拶については TPO に応じて実践できる様にきめ細かい指導を実践している。また、清掃指導についても自ら率先して実践することができる様に日々の取り組みを積み重ね、習慣化できる様に指導強化していく。

・産学連携の促進

ボランティア、短期／長期インターンシップの機会提供を積極的に行い、公開講座や学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等を通じたアドバイスを取り入れながら業界・地域密着型の学校運営を強化していく。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

- ・相手を認めるという段階の前に、まずは自分の考え方を知る、相手の気持ちを知る段階が必要ではないか。
- ・全教室に掲示していたわけではなかったのが、大勢の目に触れるようにしても良かった。

#### ② 今後の改善方策

- ・継続して『教育理念、人材育成像』を内外に浸透していく事で学校の教育特徴を創り上げていく。
- ・HPや掲示物、教員によるたび重なる積極的な外部、保護者への目に留まる掲載と呼びかけを継続する。
- ・スタートアッププログラム（新入生研修）や学校生活でのクラス目標設定等の際、理念および教育方針の浸透に向けた積極的な働きかけを実施している。
- ・教育理念や育成人材像がより具体的な社会的ニーズを捉えた育成となるよう、31年度へ向けてカリキュラム変更を行う。（三幸学園全体）
- ・新入生保護者説明会の内容を改善し、より学校の教育理念や人材育成像を明確にし、生徒指導内容を伝える工夫を行った。

#### ③ 特記事項

- ・業界の動向やニーズを実習アンケートで得たデータを元に分析し、教務方針・目標に取り入れた。
- ・体系化された教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を教務指導目標に取り入れ、具体的な指導を計画し、取り組んでいる。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「実習生を受け入れていただいて、本校の生徒の挨拶はどうか。」

##### ・小田委員（介護福祉科について）

挨拶に関して自分からするもののはずが、人によっては社会人になっても苦手意識のある職員もいる。社会人になったからと言っていきなり気持ちを切り替えるというのは学生にはなかなか難しい。学生のうちからよい習慣を身に付けておくことは非常に重要。

##### ・井上委員（介護福祉科・診療情報管理士科について）

三幸学園の教育理念や人材育成像はすごく心に残っている。常に目に付くところに教育理念が掲げられていることがよかったと思う。人と対応するという点では、スタプロのアクティブラーニングや成功の法則（未来デザインプログラム）は今でも生かすことができている。挨拶の習慣や人間教育は介護に限らず、他職種でも活かせると感じている。非常に有意義な学生生活であった。実習中は緊張もあり生かせていなかったかもしれない。そのことも踏まえ、普段の学校生活で挨拶の姿勢に関して厳しく教えていただき、気に掛けることによって現場で生かせるようになるのではと思う。学校での指導に力を入れることで、実習や就職後、緊張する場面でも自分からせずに生かしていけるようになるのではないかと。

## ・藤田委員

当社の若手職員にもなかなか目が合うまではなかなか挨拶をしない職員がいる。挨拶は人としての基本であるため、仕事を教える前に挨拶の仕方を学ばせている。私自身も、三幸学園で勤めるようになり「ながら」ではなく、「立ち止まって」挨拶することの大切さを考えさせられ、大変感謝している。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

・教職員のワークライフバランスや残業時間の管理については、一昨年度より課題とし力を入れて取り組んでいる。

### ② 今後の改善方策

- ・継続的に健全且つ安定的な学校運営を行うと共に、各教育取り組みや活動については積極公開していく。
- ・就業規則(特に勤怠管理)遵守を徹底し、ワークライフバランス・業務の効率化を積極的に推進する。
- ・コンプライアンスやハラスメントに関する意識を高める教員研修を今後も継続的に行っていく。

### ③ 特記事項

- ・就業規則、職員行動指針を設定し、年度毎に改訂している。また内容は、職員会議にて共有している。
- ・年3回、全教職員に向けて会議内にて運営方針の浸透と情報共有を心掛け、具体的取り組みを提示している。
- ・ハラスメントについて教員向けに研修を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・小田委員(介護福祉科について)

介護現場でも職員の心身の健康には常に気を配っている。特に最近は精神的な辛さを訴える職員も増えてきているように感じる。1度怒られると怒られた先輩職員とは話せないといった新人も出てき始めているため、管理者の立場としても色々な年齢、立場の職員が働きやすい環境を整えることを常に考えている。

#### ・長谷川委員(診療情報管理士科)

診療情報管理士は診療情報管理室などがある為、孤立しないように、面談などをして近況を聞く機会を設けている。診療情報管理士は、企業と違って1つのものをみんなで作っていく形態ではなく、個人のスキルがものをいうところがある。各個人、1人1人にしっかり目を向けないとトラブルが起きてしまう。特に女性が多い

職場のため、目上の人に仕事を振ることができなかつたりしないように、周りが目をかけて育てていく必要があると思う。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

・教員の現場理解を深める機会を多くつくり、関連分野についての教育活動の質を高める。

#### ② 今後の改善方策

・教員外部研修の実施:教員が実際の業務を体験し、その後の教務に生かしている。

また、介護福祉科では、教員向け研修を実施したことで、現場の求めていることを全員の認識として取り入れることができたので、今後も継続していきたい。

・診療情報管理士科について、担当教員の知識不足がうかがえる。業務内容をきちんと知るために現場実習に参加させていただくなど、継続的な努力を行っていきたい。

・研修を学生と教員で受け、教員と学生がともに学ぶ機会にすることを実践したい。

#### ③ 特記事項

・外部講師を招き、年2回教員向け研修を実施した。

・医療機関や関係イベントでのボランティア機会を増やし、産学連携の強化を行った。

福岡市役所主催の健康診断ボランティア、献血ルームボランティアに参加し医療現場を直に感じる機会を提供した。

・アクティブラーニング研修や授業アンケートや教員間の授業見学会を促進、授業のビジュアル化を推奨し、授業の質の向上に努めている。

・教育課程編成委員会の定期開催により、教育課程編成委員からの意見を元にカリキュラム運営や実習運営の改善機会が増え、生徒満足度にもつながっている。(卒業生アンケート結果の向上)

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

##### ・小田委員(介護福祉科について)

貴校とは付き合いも長く、先生方がどういった思いで取り組んでいるか理解できているので、実習などもやりやすい。引き続き相互理解を深めながら進めていき、施設側も学生たちに良い学びとなるよう努めていきたい。また福岡市の介護の業界は全国に比べて離職率が高いので、学校と施設が協力し合い現場の理解を深めることで、学生が就職した際のギャップを少なくしていきたい。

##### ・長谷川委員(診療情報管理士科について)

診療情報管理士の業務内容は多岐にわたるため、イメージしづらいと思う。1年次から診療情報管理士について学んだり、現場を見たりすることは大変有意義だと感じる。また「診療情報管理士」という資格をもっていれば医事課や診療情報管理士、医師事務作業補助者、医療情報システムなど様々な部署で活躍ができる。言い換えれば様々な部署で対応できなければならない。現場を見ることで、診療情報管理士に固執しない働き方も理解してもらえればと思う。

##### ・相良委員(診療情報管理士科について)

昨年度、貴校からのアルバイト生を受け入れ、自分自身も卒業生であるため、どういう段階まで理解しているというものを考慮したうえで全部一から説明していった。(ICD-10やDPCの仕組みなえど)1年間医療事務の授業など、医療にかかわる授業を学んでいるので、吸収をする力が高い。覚えたい、覚えようという姿勢があった。当院が整形外科のため、入力業務などがパターン化されてはいたが、2か月経つとどこを見てもどんな情報が得られるのか覚えていたので、現場としても大変助かった。今後も学びの1つとして診療情報管理士科はもちろん、他の学科でも積極的に取り入れていくべき取り組みだと思う。



#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・就職活動の早期化。
- ・卒業後の卒業生の就業状況の把握をし、学校カリキュラムに生かす仕組みが出来ておらず、卒業生の把握も転職状況等まで把握できていない。

##### ② 今後の改善方策

- ・従来の就職活動スケジュールを見直すこと、またキャリア支援を担う立場として知識の習得に努める。
- ・退学率低減を目的に退学者アンケート実施し、対応の改善を検討する。また退学者報告書をリニューアルし、報告内容として具体的な対応を明記し、課題発見・改善する。
- ・退学率の低減のために、保護者との連携を強め、教員間でも情報共有と連携したサポートを行っていく。
- ・教育開発部主導で卒業生動向調査を実施し、卒業生の現在の進路等の調査を行い、検証する。
- ・継続して各種教育アンケート(授業・実習・卒業生)を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進める。
- ・求人や実習先の新規開拓とともに就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問を実施。現場での人材ニーズを把握し、それに合う教育を行っていく。
- ・卒業生状況の把握のための教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問に力を入れる。

##### ③ 特記事項

- ・教職員の現場実習・研修を推進。医療機関・福祉施設等へ教職員の業種・業務理解に努めた。
- ・学科間連携を強め学科ごとのニーズや課題に応えるために学科会議を実施した。
- ・具体的な結果は以下のとおりである。

平成 30 年度進路決定率:100%

平成 30 年度退学率:4.5%

介護福祉科 国家試験合格率 100%

診療情報管理士科 認定試験合格率 83.3%

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

###### ・小田委員(介護福祉科について)

卒業生訪問は大変ありがたい。卒業しても学生であったことに変わりはないので、働いている職員にしてもいい影響だと思う。卒業しても繋がりがあがる事は卒業生にとってもいい励みになると思う。

個人的には、せっかく来てもらった先生方に、ゆっくり話してもらう時間を取れず申し訳ないと思う所もある。業務中で先生が来たから時間を取るということは、利用者様が中心となる施設では、いきなりでは難しい。事前に連絡を頂ければ、シフト調整できるので、連携を取って現場でのかかわりが作れる可能性もある。他施設では前例がなければいい顔をしない施設もあるかもしれないが、双方にとってメリットは多いため、メリットを伝えるところから進めていければと思う。

## ・相良委員

今でも業務をやっていてわからないことがあれば、学校に電話している。学校が助けてくれる場所だと感じていないと連絡できないので、在学中のみならず、卒業してもサポートして下さる先生方にはとても感謝している。

## (5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

- ・通信制高校や既卒入学者の増加により、生徒の多様性や、世代の価値観理解等の必要性が高まっている。
- ・保護者との連携は更に強化する必要がある。今年度、介護福祉科において保護者面談会を実施している。

### ② 今後の改善方策

- ・スクールカウンセラーの配置やLGBTに関する教職員研修を実施、個別の悩みや相談に対応する環境を設定していく。
- ・自分自身の将来を描けず、途中で学校に来る目的を見失いそうになる生徒もいる。そのような生徒に対し、継続的に自身の夢、目標を持ち続けられる仕組みづくりが必要。
- ・保護者説明会を実施したり、定期的なお便りで学校生活の様子を伝えたりとまずはこちらから情報発信していく。

### ③ 特記事項

- ・各学科、後期に入り専門科目の習熟度が進んだタイミングで、授業で学んだことの研究発表の機会を作っている。（介護福祉科 学びの会、診療情報管理士科 研究発表会 など）

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・小田委員(介護福祉科)

今の若手職員は自分が何のために働いているか不明確な方が多い気がする。当施設では職員に、「今後どのような働き方をしていきたいのか」面談をしている。働き方の中身を変えていくために、まずは「自分たちが



どのようなことをしていくことが必要なのか」。個人として、「1年後にはどのようになっていたいのか」などを面談している。それは施設としても重要であるし、一個人として生きていく中でも必要だと思っている。また、施設としてはありがちであるが、指導員をつけ、責任をもって仕事に向き合ってもらう環境を作ることで、仕事のやりがいを感じ、働くことへの意欲向上に繋げている。また指導員以外の周りのスタッフも無関心にならないようにして、全職員で支える。多方面からの刺激を受けることで成長へと促す。

・井上委員

保護者との連携は大変重要だと感じる。生徒さんも多様だと思うので、その子に合ったフォローを行うためにも保護者の方からの意見は大変貴重な材料になると感じる。

**(6)教育環境**

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・継続して校舎および設備については保守管理企業様と円滑な連携の上で安心・安全な教育環境の維持向上に努める。

② 今後の改善方策

・大規模改修工事が終了したので施設の維持を行うことと、より安全で居心地の良い施設を目指す。

③ 特記事項

- ・昨夏に校舎内の大規模改修工事が完工した。
- ・全教室へ避難経路マップを掲示し、年度初めに確認を行う時間を設定した。
- ・防災啓蒙・避難マップを全校生徒へ配布し、ホームルームで実際に避難訓練を行った。また福岡市のJアラート訓練実施に伴い、校内での対応についてもホームルームで確認、訓練を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・藤田委員

エントランスが広がって、白をベースとした校舎内は清潔感が出ている。汚す生徒もいないので、とくに目に付くものはない。トイレもきれいに使われているので助かっている。洗面台に様々なものを流すこともなく、報告も受けていないので問題はない。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え健全な学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。特に介護福祉科については、学校単体ではなく、各関係機関と連携をし介護の魅力をしっかり発信していかななくては、学生募集にはつながらない。また、留学生の受け入れも合わせて積極的に行い、介護人材不足に対応できる学校となっていきたい。

### ② 今後の改善方策

・近年は学費支払いが困難である事を理由に進学を辞退する学生も多くなっている為、特に保護者様に対して入学説明会やパンフレット等を通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかり易く伝える事に努めていく。

・今後は、グローバル化の世情と学びのニーズに対応すべく、留学生の受入体制も構築していく。

### ③ 特記事項

・地域で設置されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて魅力を正確に伝えられる様に計画的に活動を展開している。

・広報面では、オープンキャンパス内において業種を理解するという目的で高校生を施設に連れていく施設イベントを行った。(介護福祉科)

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・長谷川委員(診療情報管理士科)

診療情報管理士の業務はイメージがしづらいので、現場を見せることで高校生が興味を持ってくれることもあると思う。診療情報管理士については受け入れたことはないが、看護については高校生や中学生が見に来ることがある。地域の高校からの依頼で受け入れている。今後検討できる材料だと思う。

#### ・相良委員

現場に来ることはイメージがわきやすいので、専門学校に行く意味ということが感じられるのではないかと。長い目で見ると、将来の後輩を見つけるようなものなので思うので、受け入れは前向きにとらえていいのではないかと。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

一昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己点検／評価は学校関係者評価委員を通じて問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。

② 今後の改善方策

・法令／コンプライアンスの順守と個人情報の保護・管理の徹底に努める。

・個人情報取扱の為の同意書の記入と個人情報管理の徹底の周知を職員会議等で行い、教職員の意識向上に努める。

③ 特記事項

・実施結果は7月を目処に学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・地域や一般の方々に向けた公開講座やイベントを企画し、学生の学びと連動する機会を設けていく。

② 今後の改善方策

・市町村および関連企業様との連携やボランティア活動の情報収集を強化しながら地域の活性化と貢献度向上に繋がる教育活動を数多く行っていく。

・継続して医療機関・施設へのボランティア参加などを推進し、主に就職担当者中心に実習以外での学びの場を整備していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・小田委員

現場でのボランティアは学生さんはもちろん、施設側にも大変有意義な機会なので、今後も積極的に受け入れていきたい。現場を見ることで考え方が変わっていく人もいるので、現場の中で掴めるものがあるはずだと思う。相手の意見も聞きつつ、様々な取り組み方があるということを知るいい機会にしてほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

前年度の学校評価委員会から改善した点や新たな取り組みの報告会を実施することで、常に課題・問題意識を持って学校運営をすることが出来、毎年良い機会となっている。職業実践専門課程の認定を受け、今回で5回目の実施となったが、特に生徒への教育活動においては、学校評価委員の方々に特に興味を持って頂き、会議の場だけではなく学校行事の機会などで学校へ来校頂き、大変感謝している。

今後学校としてキャリア支援に力を入れていきたいと掲げているが、現場でのキャリア観醸成に対する工夫などを伺えたことは大きな学びとなった。現場で活躍する人材を育成するためにも学生時代から自身の今後のキャリアについて考える習慣をつけていくことは重要であると改めて理解したため、更に強化をしていきたい。

今後も引き続き、よりよい学校運営を行えるよう自己点検評価を行い、学校関係者評価を継続して行っていきたい。

以上